四話詩季

小林 太陽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
四話詩季

【Ｎコード】
Ｎ４２１６Ｂ

【作者名】
小林　太陽

【あらすじ】
四つの詩を季節ごとにまとめた詩集作品．四季と擬音のハーモニー．（連載作品として投稿してしまいました．これで完結です☆）

★☆四話詩季★☆（前書き）

こちらの作品は詩となってます．

★☆四話詩季★☆

☆★☆★

第一話「桜ある春」

あわいあわい紅色をした
あわい色をした
桜の花びらは
はらはらと
ゆらゆらと
あわくあわく散りゆく前に
あわく散る前に
いのちの始まりに
生まれる私たち
愛を愛を与えてくれた
母さんのように
桜の花びらは
私たちのために
はらはらと
ゆらゆらと
あわやあわやの日々に
あわやの日に
この胸の高まりと
新しき友との出会いに
生まれゆく私たちへ
桜ある春の想い

☆★☆★

第二話「蚊」

雨が止みひんやりとしたそよ風が
ねっとりした枕の脇を泳いでいて
まん丸お月様がぼんやりと
闇夜を静に照らしている
か弱き流浪人遠くから
揺れる波の上をふらふらと
溺れそうになりながらも歩いていて
風という名の通行人に揉まれて進む
傍までやってきた流浪人は
挙動不審に陸に目をやりながら
今度は何かを呟いた

ぷ～ん
ぷ～
んぷ～
ん～ん

浮浪者の呟く愚痴の音が
虚ろな夜に色をつけ
静から動へと猛獣を
次第に無理やり駆り立てる

パチン！

本能が働くこの一瞬と
理性でなだめる後の痒みが
雨の止みと同時に始める
夏の苛立ち
流浪人の旅立ち

☆★☆★

第三話「秋の音」

秋がきた
もぐもぐ　むしゃむしゃ

秋がきた
ぐーすか　ぴーすか

秋がきた
ぱらぱら　ぺらぺら

秋がきた
よいしょ　こらしょ　どっこいしょ

秋がきた
いちゃいちゃ　べたべた

耳をすましてみよう
楽しさ欲張り
秋の音

☆★☆★

第四話「地元の正月」

帰省ラッシュの新幹線を脇目に今日も鈍行
気がつけばすでに午後十時東京着
遅い

乗り継いだ高速バスは最終便
地元午後十一時四十五分着
眠い

家だ
ただいま
正月正月
あけましておめでとう
日の出とともに初詣
餅を頬張りおとそ飲む
どこからか聞こえてくる太鼓の音

ドンドコドンドコ
ドコドコドンドコ
ドコドコドコドコ
ドンチャカドン
ガタンゴトン・・・
ガタン
ゴトン

ガタンゴトン
ガタンゴトンガタンゴトン
ガタッゴトッガタッゴトッ・・・
気がつけば正月終りまた鈍行へ
早い

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4216b/

四話詩季

2010年10月28日06時39分発行